

【悪魔】 何年か前に始まった「クールビズ」

とやらも、すっかり定着して毎年夏の恒例行事みたいになってきましたね。でも、自分が服装を変えるだけでなくて、周りの人にも、ネクタイを取れだの上着を脱げだの、ずいぶんおせっかいなことを言う人がいるのはなぜなんですか？  
誰がどんな服装をしたってその人には関係ないはずでしょう？

【天使】 それはクールビズの本質を理解していない発言だ。クールビズは、2005年に環境省が中心となって推進したキャンペーンで、本来の目的は、夏季の軽装を励行することにより過剰な冷房を抑制し、以て環境対策の一環となることが期待されるものなのだ。従って、自己のみならず、他人にもクールビズを奨励することは、クールビズの本質に合致するものであり、他人に対する不当な介入には当たらないものと考えられる。

【悪魔】 それは全く見当外れですよ。環境対策のためにクーラーを使うのを節約するのが本来の目的なら、どうして「クーラーを使わない

# 悪魔と天使の 法学入門

筑波大学准教授 星野 豊

第30話

## クールビズの現在

ようにしよう」と直接言わないんですか？ 上着やネクタイは、クーラーが使われなくなって暑くなってしまうから、無理に着けておく必要がない、という程度のもので、むしろ環境対策の結果というか、一種の副作用ですよ。それなのに、上着とネクタイを着けないことの方が、いつの間にか目的になってしまって、クーラーの方は一向に止められていないじゃありませんか。そんな本末転倒なことがまかり通っていて、どこが環境対策なんですか？

【天使】 冷暖房がほとんど普及していなかった従来と異なって、現在は冷暖房があることを前提に建物の構造が出来上がっているから、仮に環境対策が重要な目的であるとしても、冷暖房自体の使用をやめさせることは事実上不可能だ。実際、冷房を使用しない場合の通気対策は窓を開けることだが、事故や事件の防止等の観点から実施が困難だという事情もありうる。ただ、そのような状況の中でも、少しでも日中の冷房の使用が抑制できれば、地球全体の環境に対する配慮として大きく貢献できることは疑いない。このような背景から、多くの国民が心理

的な抵抗なく参加できる形態として、クールビズの象徴であるノー上着ノーネクタイが考案され、それなりの成果を挙げているわけだ。一部の問題のみを取り上げて、全体の目的を見失うことがあってはならない。

**【悪魔】** 要するに、日中働いている人のためにはクーラーが必要だということですよ。それならそれで結構でしょう。それに、暑いと思っている人が、衣替えの季節に上着やネクタイなしで仕事をして、全然問題じゃないです。でも、唯一おかしいのは、上着やネクタイを着るにせよ脱ぐにせよ、「上からの命令」という形でみんなに強制されているところなんです。同じ温度や湿度でも、人によって感じ方には大きな差があります。汗をかくかかかないかだけでも、全然違いますからね。それに、体質やら体調やらで、直接肌を風にさらすことの方が問題だという人もいるはずでしょう？ そういう一人一人の事情を一切無視して、一律に「28度冷房、上着・ネクタイ着用不可」としていることが、なぜ正しいと言えるんですか？



**【天使】** 温度や湿度に対する個人の感覚差をうんぬんするのであれば、従来でも過剰冷房による健康被害は存在していたわけで、それ自体はクールビズ固有の問題ではない。むしろ、冷暖房機が普及し始めた頃は、過剰冷暖房がむしろ望ましいという誤った風潮すら存在し、対人関係上明確な意思を表明できない者が、事実上被害を受けてきた傾向がないわけではないから、仮に個人差において少々の問題があるとしても、本来の自然状態に近い状況でクールビズを実践することは、むしろ個々人の健康増進にとって望ましいと言えるはずだ。

**【悪魔】** 話をごまかさなないでください。それを言い出したら、多くの人が仕事で身に着けている服装は西洋文化の真似であって、そもそも日本の風土に合わないものなんです。自然の状態に近いほど快適でなくなります。本当に環境対策に本腰を入れたのであれば、ほとんどの人を同じ時間に同じ場所に集めて働かせること自体をやめてしまっただけで、自由な格好で仕事をさせる、というところまでしないとだめなんじゃないませんかねえ。